

グループワークでの意見②

ゾーニングに関するご意見のほかにも、多くのご意見やアイデアをいただきました。

植栽について

- ・大きく育った樹木の木陰は、休憩や健康運動の場として活かせば気持ちの良い空間になる。
- ・道路沿いの生垣は撤去して見通しを良くする。
- ・周辺住宅に配慮し、視線を遮る樹木は残してほしい。

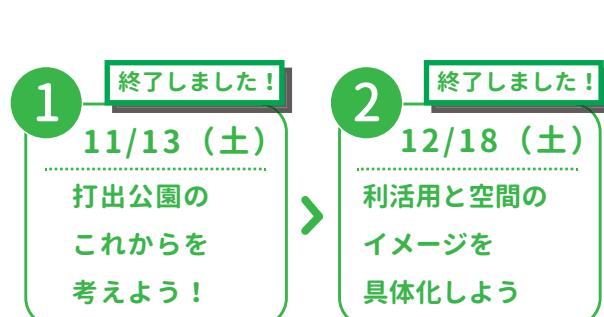
施設について

- ・遊具更新(残したい遊具：砂場、ブランコ、鉄棒、複合遊具、カニやウサギのコンクリート遊具など)
- ・スペースがあまりないので、広場を確保するため、さるの檻は撤去して、遊具は取捨選択した方がよい。
- ・さるの檻を撤去する代わりに、何らかのかたちで残すこと(モニュメント、部材の活用など)も検討してはどうか。
- ・木の下の空間にベンチやテーブルを。
- ・砂場と手洗い場はセットに。

ワークショップでのご意見を踏まえ、打出公園・日本庭園の計画案を作成します。

次回は…『計画案を確認して、公園の使い方やマナーを考えよう』

第3回のテーマは「計画案を確認して公園の使い方やマナーを考えよう」。これまでに検討してきた内容をもとに事務局で作成した計画案について確認します。また、これまで考えてきた利活用イメージを実現していくための公園の使い方やマナーなどについて話し合う予定です。



日時：1/29（土） 14 時～16 時
場所：打出教育文化センター 大会議室

打出の小道プロジェクト

「打出の小道プロジェクト」について

「打出の小道プロジェクト」は、歴史情緒ある施設の活用に加え、公園と近代の日本庭園を一体的に整備することで、地域の方々に親しまれる公共空間を再構築し、小道界隈のにぎわい拠点とすることを目的としています。



打出公園リニューアルについてはこちらから⇒

【問合せ・申込先】芦屋市 都市建設部 道路・公園課
電話：(0797)38-2116 / メール：kouenryokuchika@city.ashiya.lg.jp



リニューアル
についてはこちら

打出の小道プロジェクト

打出公園&日本庭園（打出教育文化センター） リニューアルワークショップニュース



2021.12.18(土) 第2回ワークショップ開催！

『打出の小道プロジェクト（裏面参照）』の一環として実施する打出公園と日本庭園（打出教育文化センター）のリニューアルに向けて、市民の皆さんと一緒に考えるワークショップ。

第2回のテーマは「利活用と空間のイメージを具体化しよう」。第1回の結果をふまえ、事務局で検討した整備方針案をたたき台として、どんな利用がしたいか、そのためにはどんな空間や施設があって、どんな空間構成にしたらよいか、みんなで話し合い、ゾーニング案をまとめました。総勢 29 名が参加し、活発な議論が行われました。

第2回ワークショップの内容

第1回のふりかえり

利活用と空間のイメージを具体化しよう

整備方針に関する事務局案の説明

<グループワーク>
利活用イメージやゾーニングの検討

ゾーニング案をまとめよう



事務局の説明

第1回ワークショップをふまえた整備方針案

グループワークの前に、コンセプト案や打出公園の整備方針案、日本庭園の空間構成案について、図面やイメージ図などを用いて説明し、今回の議論のポイントを参加者の皆さんと共有しました。



コンセプト案

みんなで楽しむ
みどりのえん

緑や歴史を
大事にする

多世代が楽しめる

安心して使える

説明内容
の概要

整備方針案

⑥日本庭園の空間構成の整理

- ・鑑賞を中心とした「回遊式庭園」と活用して親しむ「園地」として整理

①植栽の保全と整理

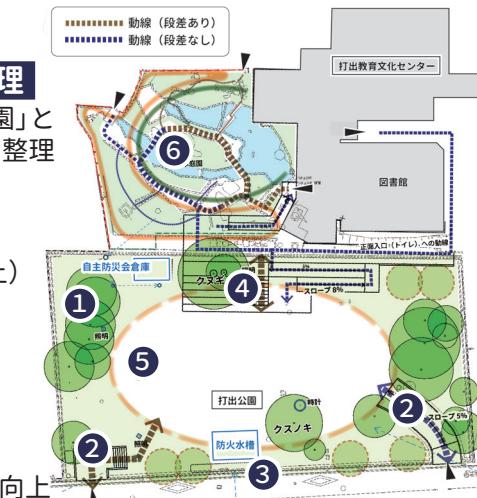
- ・高木を活かし(緑陰・景観)、中低木を整理する(安全性向上)

⑤利活用空間の確保

- ・多世代で楽しめる利活用空間(ワークショップで検討)

②出入口の安全性向上

- ・出入口の改修による安全性の向上



④高低差(1.2~1.3m)の処理の検討

- ・クヌギの緑陰と高低差を活用した憩い空間(大階段)とスロープ
- 現況**

クヌギの緑陰を活かした
斜面兼ベンチ

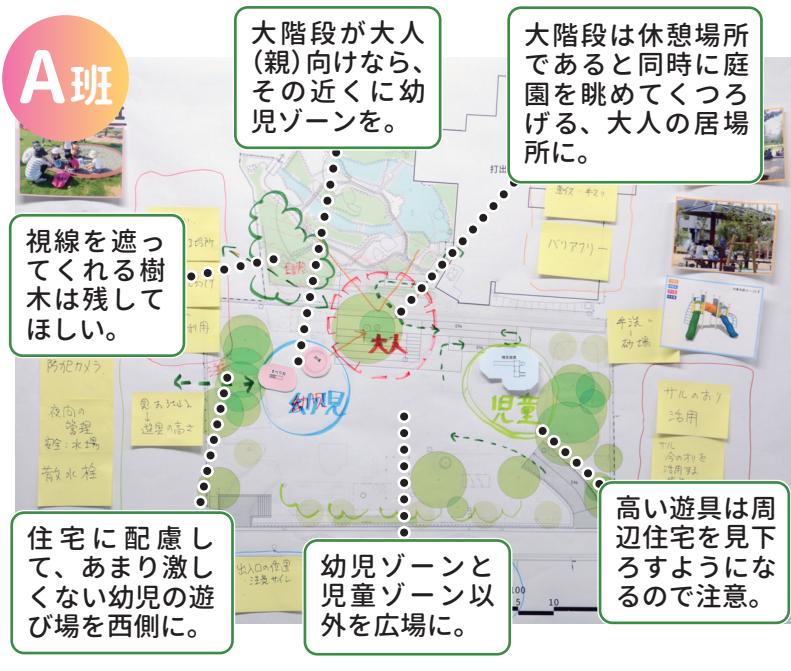
イメージ

ゆるやかに上れる
スロープ (8%)

グループワークでの意見①

打出公園と日本庭園の利活用ゾーニング

A班



B班



C班



D班



全体でまとめたゾーニング・利活用イメージ案

日本庭園は「鑑賞」と「体験」のゾーンを区分して、それぞれ充実させる。

大きな考え方

日本庭園や歴史的な建築(図書館)などの資源があることから、「緑」「文化」を大事にした公園とする。

周辺住宅に配慮して、緑のバッファーは確保する。

クヌギの緑陰空間は、大人の憩いの場であり、子ども達を見守る場として公園の中心的な存在に。

幼児と児童の遊び場については、動線や周辺住宅に配慮して配置を考える。

幼児の遊び場のそばには、大人が見守りやすい場所を。

検討課題
西側の出入口もスロープに(ベビーカー、自転車利用)できないか?

道路沿いは見通し良くするとともに、隣接する住宅地への配慮を。

出入り口から打文までのバリアフリー動線を確保。

→ 安全性、緊急車両やバリアフリー動線の確保、費用面などを総合的に検討します。

※ここでは、ゾーニング案や利活用イメージに関する主な意見をまとめています。
その他の意見は、裏面にも掲載しています。